

## 産業理工学部 アセスメントプラン

## アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

## アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業研究等ルーブリック	DP1～2	毎年度末等	卒業学年	卒業論文・卒業研究等の学修成果	各学科	個々の教員が評価を行い、結果を学科で集約し、各学科の授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	卒業アンケート	DP1～3	3月	卒業学年	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の満足度	学生支援課	集計結果がIR・教育支援センターより提供され、学部の結果については、当該年度の自己点検・評価報告書に記載され、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	卒業生の進路状況	DP1～3	毎年1回	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、進学率）	学生支援課	キャリア支援室が卒業生の就職状況をとりまとめ、結果については当該年度の自己点検・評価報告書に記載され、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
4	学部長会談	CP/ DP1～2	毎年1回	学生代表者	学修行動、授業・カリキュラム満足度 学生生活に関する要望等	学部長	学部で実施後に学生支援課教務係で集約 【学修行動、授業・カリキュラム満足度に関する意見】 学部運営会議や教授会に報告され、その内容をもとに授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価に活用 【学生生活に関する要望】 学生支援課にて内容を精査し、学修・生活環境の改善、自己点検・評価に活用
5	学修振り返りアンケート	CP	毎学期1回	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	FD委員長	FD委員会が実施分の結果を集計し、教員がアンケート結果に対する回答書を作成することで、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。

6	公開授業	CP	每学期1回	全学年	授業実施方法の改善	FD委員長	授業を見学時、カリキュラムツリーの関連科目を確認し、CPの内容に沿った授業内容であったかコメントを記述することで、CPや授業実施内容の改善に活用
7	オフィスワーク、成績不振学生、休退学の調査	CP	每学期1回、随時（成績不振時、休退学）	全学年	学生生活状況の確認、学業不振の状況（GPA、修得単位数、留年者数）、休学者数、退学者数	学生支援委員長	学科教員が学科学生に対する面談を実施し、修学及び学修支援、自学部のカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
8	GPS-Academic（3年次を基本）	CP	毎年1回	原則3年生	学修行動、授業・カリキュラム満足度	学生支援課	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者より報告を受け、キャリア支援、各学部の授業方法やカリキュラム改善、学修支援や低学年時における学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
9	学生生活実態調査	CP	隔年9月	全学年	学生生活、課外活動の経験、学修行動、大学に対する評価	学生支援課	集計結果がIR・教育支援センターより提供され、学部の結果については、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
10	英語プレイスメントテスト	CP	12月	1年生	TOEIC Bridge テスト（2回目）	学生支援課	1年間の習熟度を把握し、2年次英語のクラス分けに活用
11	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学力	学生支援課	集計結果が入学センターより提供され、入学者の判定、入学試験の改善、入学者の現状把握に活用
12	GPS-Academic（1年次）	AP	毎年4～5月頃	1年生	本学への満足度、入学前の学習状況、海外留学の意識、卒業後の進路	学生支援課	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者より報告を受け、入学時点の汎用的能力の把握、近大ゼミ、今後の学修支援、自己点検・評価、情報公開に活用
13	英語プレイスメントテスト	AP	毎年3～4月	1年生	TOEIC Bridge テスト	学生支援課	学部が入学時点の英語習熟度を把握し、習熟度別語学教育のクラス分けに活用

以上

## 産業理工学部 生物環境化学科 アセスメントプラン

## アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

## アセスメントの方法

No	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業研究等ルーブリック	DP1～2	毎年度末等	卒業学年	卒業論文・卒業研究等の学修成果	各学科	複数の教員が評価を行い、結果を学科で集約し、各学科の授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	卒業アンケート	DP1～3	3月	卒業学年	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の満足度	学生支援課	集計結果がIR・教育支援センターより提供され、学部の結果については、当該年度の自己点検・評価報告書に記載され、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	卒業生の進路状況	DP1～3	毎年1回	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、進学率）	学生支援課	キャリア支援室が卒業生の就職状況を取りまとめ、結果については当該年度の自己点検・評価報告書に記載され、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
4	近大ゼミルーブリック	DP2～3	毎年1回	1年生	資料作成・発表議場等の学修成果	各学科	個々の教員が評価を行い、結果を学科で集約し、各学科の授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
5	学修振り返りアンケート	CP	毎学期1回	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	FD委員長	FD委員会が実施分の結果を集計し、教員がアンケート結果に対する回答書を作成することで、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。
6	公開授業	CP	毎学期1回	全学年	授業実施方法の改善	FD委員長	授業を見学時、カリキュラムツリーの関連科目を確認し、CPの内容に沿った授業内容であったかコメントを記述することで、CPや授業実施内容の改善に活用
7	オフィスワーク、成績不	CP	毎学期1回、随時	全学年	学生生活状況の確認、学業不振の状況（GPA、修得単	学生支援委員長	学科教員が学科学生に対する面談を実施し、修学及び学修支援、自学部のカリキュラム改善、自己

	振学生、休退学 の調査		(成績不振時、休退学)		位数、留年者数)、休学者数、退学者数		点検・評価に活用
8	GPS-Academic (3年次を基本)	CP	毎年1回	原則3年生	学修行動、授業・カリキュラム満足度	学生支援課	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者より報告を受け、キャリア支援、各学部の授業方法やカリキュラム改善、学修支援や低学年時における学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
9	学生生活実態調査	CP	隔年9月	全学年	学生生活、課外活動の経験、学修行動、大学に対する評価	学生支援課	集計結果がIR・教育支援センターより提供され、学部の結果については、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
10	英語プレイスメントテスト	CP	12月	1年生	TOEIC Bridge テスト (2回目)	学生支援課	1年間の習熟度を把握し、2年次英語のクラス分けに活用
11	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学力	学生支援課	集計結果が入学センターより提供され、入学者の判定、入学試験の改善、入学者の現状把握に活用
12	GPS-Academic (1年次)	AP	毎年4~5月頃	1年生	本学への満足度、入学前の学習状況、海外留学の意識、卒業後の進路	学生支援課	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者より報告を受け、入学時点の汎用的能力の把握、近大ゼミ、今後の学修支援、自己点検・評価、情報公開に活用
13	英語プレイスメントテスト	AP	毎年3~4月	1年生	TOEIC Bridge テスト	学生支援課	学部が入学時点の英語習熟度を把握し、習熟度別語学教育のクラス分けに活用

以上

## 産業理工学部 電気電子工学科 アセスメントプラン

## アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

## アセスメントの方法

No	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業研究等ルーブリック	DP1～2	毎年度末等	卒業学年	卒業論文・卒業研究等の学修成果	各学科	複数の教員が評価を行い、結果を学科で集約し、各学科の授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	卒業アンケート	DP1～3	3月	卒業学年	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の満足度	学生支援課	集計結果がIR・教育支援センターより提供され、学部の結果については、当該年度の自己点検・評価報告書に記載され、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	卒業生の進路状況	DP1～3	毎年1回	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、進学率）	学生支援課	キャリア支援室が卒業生の就職状況をとりまとめ、結果については当該年度の自己点検・評価報告書に記載され、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
4	学修振り返りアンケート	CP	毎学期1回	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	FD委員長	FD委員会が実施分の結果を集計し、教員がアンケート結果に対する回答書を作成することで、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。
5	公開授業	CP	毎学期1回	全学年	授業実施方法の改善	FD委員長	授業を見学时、カリキュラムツリーの関連科目を確認し、CPの内容に沿った授業内容であったかコメントを記述することで、CPや授業実施内容の改善に活用
6	オフィスワーク、成績不振学生、休退学の調査	CP	毎学期1回、随時（成績不振時、休	全学年	学生生活状況の確認、学業不振の状況（GPA、修得単位数、留年者数）、休学者数、退学者数	学生支援委員長	学科教員が学科学生に対する面談を実施し、修学及び学修支援、自学部のカリキュラム改善、自己点検・評価に活用

			退学)				
7	GPS-Academic (3年次を基本)	CP	毎年1回	原則3年生	学修行動、授業・カリキュラム満足度	学生支援課	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者より報告を受け、キャリア支援、各学部の授業方法やカリキュラム改善、学修支援や低学年時における学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
8	学生生活実態調査	CP	隔年9月	全学年	学生生活、課外活動の経験、学修行動、大学に対する評価	学生支援課	集計結果がIR・教育支援センターより提供され、学部の結果については、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
9	英語プレースメントテスト	CP	12月	1年生	TOEIC Bridge テスト (2回目)	学生支援課	1年間の習熟度を把握し、2年次英語のクラス分けに活用
10	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学力	学生支援課	集計結果が入学センターより提供され、入学者の判定、入学試験の改善、入学者の現状把握に活用
11	GPS-Academic (1年次)	AP	毎年4~5月頃	1年生	本学への満足度、入学前の学習状況、海外留学の意識、卒業後の進路	学生支援課	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者より報告を受け、入学時点の汎用的能力の把握、近大ゼミ、今後の学修支援、自己点検・評価、情報公開に活用
12	英語プレースメントテスト	AP	毎年3~4月	1年生	TOEIC Bridge テスト	学生支援課	学部が入学時点の英語習熟度を把握し、習熟度別語学教育のクラス分けに活用

以上

## 産業理工学部 建築・デザイン学科 アセスメントプラン

## アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

## アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業研究等ルーブリック	DP1～2	毎年度末等	卒業学年	卒業論文・卒業研究等の学修成果	各教員	複数の教員が評価を行い、結果を学科で集約し、各学科の授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	卒業アンケート	DP1～3	3月	卒業学年	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の満足度	学生支委員	集計結果が IR・教育支援センターより提供され、学科の結果については、当該年度の自己点検・評価報告書に記載され、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	卒業生の進路状況	DP1～3	毎年1回	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、進学率）	就職対策委員	キャリア支援室が卒業生の就職状況を取りまとめ、結果については当該年度の自己点検・評価報告書に記載され、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
4	学修振り返りアンケート	CP	毎学期1回	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	各教員	FD委員会が実施分の結果を集計し、教員がアンケート結果に対する回答書を作成することで、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。
5	公開授業	CP	毎学期1回	全学年	授業実施方法の改善	FD委員	授業を見学時、カリキュラムツリーの関連科目を確認し、CPの内容に沿った授業内容であったかコメントを記述することで、CPや授業実施内容の改善に活用
6	オフィスウィーク、成績不振学生、休退学の調査	CP	毎学期1回、随時（成績不振時、休退学）	全学年	学生生活状況の確認、学業不振の状況（GPA、修得単位数、留年者数）、休学者数、退学者数	各教員	学科教員が学科学生に対する面談を実施し、修学及び学修支援、自学部のカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
7	GPS-Academic	CP	毎年1回	原則3年生	学修行動、授業・カリキュ	学生支援	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者

	(3年次を基本)				ラム満足度	委員	より報告を受け、キャリア支援、各学科の授業方法やカリキュラム改善、学修支援や低学年時における学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
8	学生生活実態調査	CP	隔年9月	全学年	学生生活、課外活動の経験、学修行動、大学に対する評価	学生支援委員	集計結果がIR・教育支援センターより提供され、学科の結果については、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
9	英語プレースメントテスト	CP	12月	1年生	TOEIC Bridge テスト (2回目)	学生支援委員	1年間の習熟度を把握し、2年次英語のクラス分けに活用
10	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学力	学科	集計結果が入学センターより提供され、入学者の判定、入学試験の改善、入学者の現状把握に活用
11	GPS-Academic (1年次)	AP	毎年4~5月頃	1年生	本学への満足度、入学前の学習状況、海外留学の意識、卒業後の進路	学生支援委員	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者より報告を受け、入学時点の汎用的能力の把握、近大ゼミ、今後の学修支援、自己点検・評価、情報公開に活用
12	英語プレースメントテスト	AP	毎年3~4月	1年生	TOEIC Bridge テスト	学生支援委員	学部が入学時点の英語習熟度を把握し、習熟度別語学教育のクラス分けに活用

以上

## 産業理工学部 情報学科 アセスメントプラン

## アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

## アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業研究等ルーブリック	DP1～2	毎年度末等	卒業学年	卒業論文・卒業研究等の学修成果	各学科	複数の教員が評価を行い、結果を学科で集約し、各学科の授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	卒業アンケート	DP1～3	3月	卒業学年	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の満足度	学生支援課	集計結果がIR・教育支援センターより提供され、学部の結果については、当該年度の自己点検・評価報告書に記載され、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	卒業生の進路状況	DP1～3	毎年1回	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、進学率）	学生支援課	キャリア支援室が卒業生の就職状況をとりまとめ、結果については当該年度の自己点検・評価報告書に記載され、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
4	学修振り返りアンケート	CP	毎学期1回	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	FD委員長	FD委員会が実施分の結果を集計し、教員がアンケート結果に対する回答書を作成することで、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。
5	公開授業	CP	毎学期1回	全学年	授業実施方法の改善	FD委員長	授業を見学时、カリキュラムツリーの関連科目を確認し、CPの内容に沿った授業内容であったかコメントを記述することで、CPや授業実施内容の改善に活用
6	オフィスワーク、成績不振学生、休退学の調査	CP	毎学期1回、随時（成績不振時、休	全学年	学生生活状況の確認、学業不振の状況（GPA、修得単位数、留年者数）、休学者数、退学者数	学生支援委員長	学科教員が学科学生に対する面談を実施し、修学及び学修支援、自学部のカリキュラム改善、自己点検・評価に活用

			退学)				
7	GPS-Academic (3年次を基本)	CP	毎年1回	原則3年生	学修行動、授業・カリキュラム満足度	学生支援課	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者より報告を受け、キャリア支援、各学部の授業方法やカリキュラム改善、学修支援や低学年時における学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
8	学生生活実態調査	CP	隔年9月	全学年	学生生活、課外活動の経験、学修行動、大学に対する評価	学生支援課	集計結果がIR・教育支援センターより提供され、学部の結果については、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
9	英語プレースメントテスト	CP	12月	1年生	TOEIC Bridge テスト (2回目)	学生支援課	1年間の習熟度を把握し、2年次英語のクラス分けに活用
10	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学力	学生支援課	集計結果が入学センターより提供され、入学者の判定、入学試験の改善、入学者の現状把握に活用
11	GPS-Academic (1年次)	AP	毎年4~5月頃	1年生	本学への満足度、入学前の学習状況、海外留学の意識、卒業後の進路	学生支援課	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者より報告を受け、入学時点の汎用的能力の把握、近大ゼミ、今後の学修支援、自己点検・評価、情報公開に活用
12	英語プレースメントテスト	AP	毎年3~4月	1年生	TOEIC Bridge テスト	学生支援課	学部が入学時点の英語習熟度を把握し、習熟度別語学教育のクラス分けに活用

以上

## 産業理工学部 経営ビジネス学科 アセスメントプラン

## アセスメントの方針

建学の精神並びに教育の目的に沿った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行う。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。

アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行う。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

## アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業論文・卒業研究等ルーブリック	DP1～2	毎年度末等	卒業学年	卒業論文・卒業研究等の学修成果	各学科	個々の教員が評価を行い、結果を学科で集約し、各学科の授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
2	卒業アンケート	DP1～3	3月	卒業学年	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の満足度	学生支援課	集計結果がIR・教育支援センターより提供され、学部の結果については、当該年度の自己点検・評価報告書に記載され、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
3	卒業生の進路状況	DP1～3	毎年1回	卒業学年	卒業生の進路（就職率、有力企業就職率、進学率）	学生支援課	キャリア支援室が卒業生の就職状況をとりまとめ、結果については当該年度の自己点検・評価報告書に記載され、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
4	学修振り返りアンケート	CP	毎学期1回	全学年	学修行動、授業の理解度、学修到達目標達成度	FD委員長	FD委員会が実施分の結果を集計し、教員がアンケート結果に対する回答書を作成することで、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用。
5	公開授業	CP	毎学期1回	全学年	授業実施方法の改善	FD委員長	授業見学を受けた教員が、公開授業チェックシートの内容に対する回答書を作成することで、授業実施内容の改善に活用
6	オフィスワーク、成績不振学生、休退学の調査	CP	毎学期1回、随時（成績不振時、休退学）	全学年	学生生活状況の確認、学業不振の状況（GPA、修得単位数、留年者数）、休学者数、退学者数	学生支援委員長	学科教員が学科学生に対する面談を実施し、修学及び学修支援、自学部のカリキュラム改善、自己点検・評価に活用

7	GPS-Academic (3年次を基本)	CP	毎年1回	原則3年生	学修行動、授業・カリキュラム満足度	学生支援課	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者より報告を受け、キャリア支援、各学部の授業方法やカリキュラム改善、学修支援や低学年時における学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
8	学生生活実態調査	CP	隔年9月	全学年	学生生活、課外活動の経験、学修行動、大学に対する評価	学生支援課	集計結果がIR・教育支援センターより提供され、学部の結果については、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
9	英語プレイスメントテスト	CP	12月	1年生	TOEIC Bridge テスト (2回目)	学生支援課	1年間の習熟度を把握し、2年次英語のクラス分けに活用
11	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学力	学生支援課	集計結果が入学センターより提供され、入学者の判定、入学試験の改善、入学者の現状把握に活用
11	GPS-Academic (1年次)	AP	毎年4~5月頃	1年生	本学への満足度、入学前の学習状況、海外留学の意識、卒業後の進路	学生支援課	IR・教育支援センターから依頼を受けた委託業者より報告を受け、入学時点の汎用的能力の把握、近大ゼミ、今後の学修支援、自己点検・評価、情報公開に活用
12	英語プレイスメントテスト	AP	毎年3~4月	1年生	TOEIC Bridge テスト	学生支援課	学部が入学時点の英語習熟度を把握し、習熟度別語学教育のクラス分けに活用

以上